

ZOOM
UP

日本との懸け橋として 世界中で活躍する JETAA

元 JET プログラム参加者（JET 経験者）が自主的に設立し、日本文化の紹介活動や自治体代表団の海外派遣における側面支援などを行っている「JETAA（元 JET 参加者の会）」は、自治体が国際展開する際の強力なサポート団体となりうる存在である。本特集では、「JETAA」の概要を紹介するとともに、JETAA の「日本との交流に関する活動」等を紹介し、自治体と JETAA とのコラボレーションの可能性を探る。

〔(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部〕

1

JETAA の概要について

(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部調整課

JETAA とは

JETAA とは、JET プログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）を終了した JET 経験者たちが、世界各地で自発的に形成した同窓会組織のことである。現在、日本を含めた 18 の国と地域で活動しており、その支部数は 2019 年 4 月時点で 52 支部、会員数は 2 万 2,000 人以上にのぼる。

JETAA の歴史

JET プログラムが開始された 1987 年から 2 年後の 1989 年、AJET（JET プログラム参加者の会）により、JET プログラムの任期を更新せずに帰国する JET 経験者のための事業が検討された。当時 AJET 千葉県代表を担っていたスコット・オリンガー氏により、JETAA 設立の提唱がなされ、AJET 自らが設立準備を行った後、1989 年 4 月に京都で開催された「契約更新者会議」において、JETAA の設立が決定された。

なお、JETAA 設立にあたり、クリアでは、JET 参加者と共同で「JET プログラム同窓会会則（案）」を作成した。1989 年 10 月 1 日付で制定された同会則には、

クリアが JETAA の事務局を務め、会員のデータベースを管理することや、四半期ごとにニュースレターを発行することが盛り込まれたほか、JETAA の活動目標が以下のとおり定められた。

- ①地域レベルにおける国際化の推進
- ②JET プログラム経験者のネットワークをつくり帰国者に就職と進学に関する情報の提供を行うこと
- ③JET プログラム経験者相互間の情報交換を円滑にすること
- ④JET プログラムに対する協力と未来の JET プログラム参加者の選定を支援すること



JET プログラム参加 30 周年記念レセプションの様子
(JETAA ドイツ支部)

主な活動内容

支部ごとにさまざまな活動を行っているが、共通する主な活動は以下の4点である。

(1) 草の根レベルの国際交流

ア 日本文化の紹介イベント

海外で日本文化を紹介するため、JETAA 支部が主催し、日本関連イベントへのブース出展や、夏祭りなどのイベントを開催している。

イ 日本との交流活動

日本から訪問した団体や学生との意見交換や、姉妹都市交流の支援を行っている。

ウ 現地の日系機関との交流

ジャパンソサエティやJNTOなどの日系機関と、イベントなどを通じて、草の根レベルでの交流を行っている。



浴衣での記念撮影の様子
(JETAA インド支部)

(2) 災害支援・寄付活動

東日本大震災、熊本地震、2018年7月豪雨等の災害の際に、JET 参加者の安否確認、募金活動、被災地でのボランティア活動等を行っている。

(3) JET プログラムの支援

ア 大学等での広報活動および JET プログラム採用活動の支援

JETAA 支部では、総領事館等と協力し、JET プログラムの広報や募集説明会、採用活動の支援等を行っている。JET プログラムの応募が行われる時期になると、大学等で説明会を行っているほか、その後は、総領事館で行われる採用面接のサポート等も行っている。また、支部によっては、支部主催のイベントでパンフレットを配布するなどして、JET プログラムの広報を行うこともある。

イ 出発前オリエンテーション

毎年、総領事館等が主催し、新しく日本に出発する JET 参加者に訪日スケジュールや日本での注意事項などを説明する出発前オリエンテーションが行われており、JETAA 支部では、同オリエンテーションに説明者として参加するなどの支援を行っている。



ジャパンハウスで JET プログラムを広報した様子
(JETAA ブラジル支部)

(4) 新規帰国者の支援および JET 経験者同士の互助

ア 帰国者歓迎レセプション

毎年、総領事館等が主催し、帰国した JET 参加者向けに帰国者歓迎レセプションが行われている。JETAA 支部では、同レセプションに参加し、逆カルチャーショックを和らげるために新規帰国者へのアドバイスや、母国の生活や社会に馴染むための有意義な情報を得るリソースとして JETAA 支部の紹介を行っている。

イ 就職支援

帰国した JET 経験者向けにキャリアフォーラムを開催し、帰国後の就職情報の提供や、リクルート会社の紹介などを行う。

ウ ネットワーキングイベント

JET 経験者同士の横のつながりの強化や、JETAA 支部と日系機関等との交流を深めるためのさまざまなイベントの開催もしている。



チャリティーネットワーキングランチの様子
(JETAA 西日本支部)

(CLAIR REPORT No.432 「北米における JETAA (JET プログラム経験者の会) の今後の発展に向けて」より一部抜粋)

本記事では、2019年11月29日～12月1日にかけて、JETAA International (JETAA 国際委員会；各JETAA 支部、各JET 経験者、日本の政府機関等との間を調整するとともに、各JETAA 支部の活動を支援する組織) (JETAA-I) が東京で開催した「2019年JETAA 国際会議」について紹介する。

会議概要

本会議は、JETAA 支部間の連携を深化させるとともに、現役JET 参加者、日本の政府機関等を含め、JET プログラム関係者全体の協働体制を強化することを目的に、JETAA-I がTKP ガーデンシティ PREMIUM 神保町にて

主催し、総務省、外務省、文部科学省およびクレアが開催を支援したものである。JETAA-I [役員、アドバイザー、ウェブマスター、



会議の様子

国代表]、JET 経験者団体代表、JETAA 東京・西日本支部代表、AJET 全国役員会、日本政府観光局 (JNTO)、総務省、外務省、文部科学省、クレアの計60人が出席した。

会議内容

会議では、さまざまなテーマについて議論が行われたが、そのうちの一部を抜粋して紹介したい。

1 JET プログラム参加者のウェルネスについて

(JETAA-I) JET プログラムへ安心して参加できるようにしたい。LGBT に対しても平等な扱いにしたい。セクシャルハラスメントがあった場合の相談先がわからない参加者が多い。

(クレア) セクシャルハラスメントについては非常に重く考えている。地方公共団体では、複数の相談窓口を設けていて、判断基準を持っている。クレアとして

も適切に対応されるように、必要に応じて関係者との調整も行っている。また、任用団体の担当者向けの研修も行っている。今後、JET 参加者用ハンドブック (GIH) に、性犯罪について予防や事後の連絡先、注意点等を追記予定している。

2 KenJETkai (JET 経験者が任用されていた都道府県単位で活動する集まり) の活用について

(JETAA-I) KenJETkai を通じて都道府県を中心に現役・JET 経験者をより一層つなぎたいが、あまり進んでいない。クレアの協力を得て、取りまとめ団体に KenJETkai 関係の窓口担当を設けることは可能か。KenJETkai が地域の日本人や企業と直接的な連携を行うことは可能か。

(クレア) KenJETkai 担当者を各取りまとめ団体 (都道府県) 内に設置するよう要請したい。また、クレアが自治体を訪問等する機会に KenJETkai の活動等について取りまとめ団体へ PR したい。観光分野や雇用分野に注力しているところからつながりを作っていくのもひとつの方法。JETAA や KenJETkai からの積極的な活動提案があればより具体的なプロジェクトになる。

(総務省) 全国知事会や自治体の首長会議などの会議等の場を活用して、KenJETkai の活躍状況などを伝え、共有することは可能と考えるので、情報提供等いただければ対応していきたい。



会議後のエクスカージョンの様子

3

ジャパンボウルをカナダで実現

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所

日本に関する知識を競う
ジャパンボウル

「ジャパンボウル」と呼ばれるクイズ大会をご存知だろうか。これは、米国・ワシントン D.C. を拠点とするワシントン DC 日米協会が 1992 年に設立した、日本語学習者の上達度をはかる大会である。基本的に日本語を外国語として学ぶ高校生を対象としており、日本語に関する問題のみならず、日本の文化、社会、日常生活、地理、歴史、時事など、幅広い分野から出題され、2 人または 3 人 1 組のチーム対抗で競い合う。もともとワシントン D.C. 圏内の高校生のための大会であったが、米国内の他の地域の学校からも参加者が増え、「全米ジャパンボウル大会」にまで発展した。

近年では全米大会だけではなく、イリノイ州やウィスコンシン州、カリフォルニア州などで地域の大会が開催されてきたほか、ポーランド、イギリス、フランス、イタリアなどの欧州各国やメキシコ、カザフスタンなど、世界各地でも行われるようになった。2017 年には、京都外国語大学を舞台に日本でも初めて開催され、京阪神エリアの留学生が参加した。これらの大会は、ワシントン DC 日米協会の承諾のもと、各地域の在外公館や学校、日米団体、日系企業などにより開催および支援が行われている。

カナダ初開催までの道のり

カナダにおいては、2018 年 2 月にバンクーバー市にて最初のジャパンボウルが開催された。この実現に携わったのが、ブリティッシュ・コロンビア州とユーコン準州を活動基盤とする JETAA BC Yukon 支部だった。キーパーソンは、同支部のシニア・アドバイザーを務めるグレッグ・ジョキン氏。2017 年 8 月頃、ジャパンボウルの存在を知った彼は、同支部の役員たちにバンクーバーでの開催実現について相談した。日本語を学ぶ地元の高校生にとって素晴らしい機会になるのは間違いなく、すぐに賛同を得られたものの、新規イベントを運営する

ことは支部にとって大きな挑戦でもあった。そもそもジャパンボウルがどのようなクイズ大会なのか、その知識も経験も無かったためである。

ワシントン DC 日米協会と密に連絡を取り、提供された参加者向け案内の見本やクイズの例題を基に、計画を一から詰めていった。初開催とはいえ参加者には本格的なクイズ大会だと感じてもらえるよう、大会プログラムだけでなく、ウェブサイト、上位チームへの表彰状、バナーやポスターを自分たちでデザインし、雰囲気づくりも重視した。ランチタイムには、地元の和太鼓チームによる演奏・体験コーナーを設けることとし、クイズ自体には参加しない先生やボランティアも楽しんでもらえる工夫を凝らした。

参加者募集も大きな課題であった。対象者が高校生である以上、学校や先生との協力が必要不可欠である。先生方のネットワークを通じてジャパンボウル開催を広く知ってもらい、また問い合わせはいつでも受け付けるようにした。

また、イベントのスポンサーを集めるべく、地元企業や日本に関連する飲食店へ電話やメールで広く声をかけた。断られたところも当然あったが、多くの企業に声をかけたことにより、地元の植物園の入場券やラーメン店のギフトカードを上位チームへの景品として用意することができた。なお、一番参加者受けが良かった景品はアニメイベントへの入場券だったとのことである。



大会実現に携わったメンバーやボランティア（左から 4 番目がグレッグ氏）

成功を収めた第1回大会

2018年2月24日、カナダで初となるジャパンボウル「メトロバンクーバー大会」が行われた。バンクーバー市、リッチモンド市およびポート・ムーディ市にある6つの高校から11チームが参加し、午前の予選と午後の決勝戦で、日本語の能力や日本文化への造詣を競い合った。予選ではチーム内で相談しながら回答する形式で出題され、3チームだけが進める決勝では個人で答える早押し形式のクイズも加えられた。レベルの高い勝負の結果、バンクーバー市のキラニー高校のチームが優勝を果たしたが、勝敗以上に参加した高校生らは大いに大会を楽しんだ。

事前に情報提供していたことにより、大会の様子は、地元の日系情報誌「バンクーバー新報」でも取り上げられた。記事では、JETプログラムの名称とあわせて、JETAA BC Yukon 支部の主催だったことが触れられている。

イベント後にはアンケートを実施。先生方にも集まってもらい、今回の経験を翌年以降どう活かすか、皆で意見を出し合った。



2018年大会でのチーム対抗クイズの様子



2018年大会での集合写真

日本について学び、知識をさらに深める絶好のイベントであるといえる。実際、2018年優勝のキラニー高校のチームは、翌年、外務省による対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」の派遣団員として訪日を果たしている。

JETAA BC Yukon 支部では、続く2019年、2020年もジャパンボウルを開催している。今後は、蓄積されるノウハウを活かして、活動州内の他の地域でのジャパンボウルの開催も視野に入れているという。JETプログラムで日本の文化や生活を経験した「先輩」が、こうしたイベントを通じ、自国の「後輩」に対して、日本への関心や学びを深める機会を与えてくれている。「後輩」である若者たちには、将来ぜひ日本とカナダをつなぐ懸け橋になってもらいたい。無論、それがJETプログラム参加者という形であれば何よりである。

(注) ジャパンボウルの名称は、ワシントンDC日米協会の登録商標である。

日本との懸け橋を育てるJETAA支部

ジャパンボウルは、日本に興味がある海外の若者が、

ジャンル	問題	答え
日本語	Using “気”, write an expression which means “be particular about, worry about, bother about, be concerned about”	気にする／ 気になる
地理	Match the Japanese product with the region that is famous for producing it. A.Rice B.Tea C.Dairy 1. Shizuoka 2. Hokkaido 3. Niigata	A3 B1 C2
文化	March 3 in Japan is a special day for girls. What is the name of this day? Write your answer in hiragana.	ひなまつり／ もものせつく
歴史	Who was the leader of the Satsuma Rebellion of 1877? Write your answer in Romaji.	Saigo Takamori

ジャパンボウルで出題されるクイズの例

4

日英文化季間と JETAA-UK

JETAA-UK 会長 Rob Gorton (ロブ・ゴートン)

日英文化季間と JETAA-UK

英国ダービー特別市では、大勢が出席するような日本関連イベントが開催されることは珍しいが、昨年10月、ダービー美術館で「日英文化季間」記念イベントが開催された。レセプション形式のそのイベントは JETAA-UK ミッドランド支部が主催し、豊田市・ダービーシャー姉妹都市パートナーシップ協議会との協働により実現した。

同レセプションには、鶴岡公二前駐英日本国大使、ウィリアム・タッカー ダービーシャー県統監、ウィリアム・バーリントン県長官、フランク・ハーウッド市長、マービン・クーク英トヨタ自動車取締役社長のほか、数多くのゲストや、ミッドランド地域や他地域からの JET 経験者、クリアロンドン事務所職員が出席した。

「日英文化季間」は、ラグビーワールドカップ2019日本大会から2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会にかけて、日英の文化的つながりをより強固にすることを目的に、日英の首相の合意により始まったプロジェクトで、日英両国でそれぞれ関連イベント等が開催されている。地域レベルでは、ダービーシャー県・ダービー特別市・南ダービーシャー市は、2018年に愛知県豊田市との姉妹都市提携が20周年を迎えたこともあり、同地域は日本と強いつながりを持っている。このダービー特別市で日英文化季間イベントを開催できたことは日英関係の深化に貢献すると考えられる。

イベントの実現まで

このレセプションは、Toyota City Partnership Development Board、在英日本国大使館、クリアロンドン事務所、ダービー美術館と関係の深い3人の JET 経験者によって企画・準備された。ダービー大学副学長のジュディス・ラミー、JETAA-UK 前会長のサラ・パーソンズ、そして JETAA-UK 現会長で、英トヨタ自動車に勤務する筆者だ。3人は、記憶に残るようなイベントを企画・実施するため、それぞれのネットワークと知識を持ち寄った。



スピーチの様子（右から3番目が筆者）

最初のきっかけは、「日本の妖怪と悪魔」展という日本文化の展示会が、140年の歴史を持つダービー美術館で2019年10月から開催されるという理想的な機会を知ったことだった。これを受け、レセプションは展示会のオープニングイベントに位置付けることを決めた。「日本の妖怪と悪魔」展は、オックスフォードのアシュモレアン博物館に収蔵されている、歌川国芳や月岡芳年の木版刷りを主に扱った。その付属展示として、ダービー美術館のコレクションからも日本文化関連の品が展示された。つまり、この企画展は、これまでにないほど高まっている日本文化への興味関心を満たすことのできる素晴らしい機会であり、同時に、ミッドランドにおける日英の関係の深さを宣伝するのに最適な機会でもあった。

レセプションには、鶴岡前大使にもご出席いただける



企画展「日本の妖怪と悪魔」の様子

ことになり、大使館の JETAA-UK への力強い支援のおかげで、ダービーシャー県における日英文化季節のアイデアが日英文化季節全国委員会で議論され、承認された。

鶴岡前大使は、日英文化季節の第一の目標は、日本と英国の地方の「価値あるつながり」を実証することだと説明した。トヨタを通じた日本からの投資の歴史や市民の日本への強い思いがあるダービー特別市は、このイベントを実施するのに最適な場所だった。

綿密な打ち合わせを重ねて、基調講演や企画展のプライベートツアーのほか、日英文化季節の開催を記念した鏡開きを行うなど、当日のスケジュールが確定した。東京オリンピック・パラリンピック競技大会の主催者の精神で、ゲストへ真のおもてなしと日本の味を提供したいと考え、イギリス人を対象に日本食のレッスンなども手掛ける地元のケータリング業者を選定。日本酒については、ケンブリッジの堂島酒醸造所から、英国で醸造された日本酒を、鏡開きで使用する樽と併せてご提供いただいた。



鏡開きの様子

これからの日英文化交流

当日は JETAA による運営のほか、美術館やトヨタのイベント運営の専門家、クレアからの助成金のおかげでイベントを成功させることができた。スピーチ、ネットワーキングのために約 150 人が集まり、ドリンクやカナッペが提供され、レセプション参加者のための企画展の内覧会が開かれた。

開会式では、まず筆者が関係者に感謝を述べた後、前大使、ダービーシャー県長官、英トヨタ自動車取締役社長、ダービー美術館長が挨拶した。共通していたのは、経済的な成功と、地域の誇りを創出するとともに、国際



鶴岡前大使のスピーチ

化により取り残された人々も包含する共生社会にしていくことの重要性を説いていた点だ。この地域の誇りをより深くするための国際的な文化交流が果たす役割についても触れられた。

このレセプションは、ダービーシャー県での3つの大きな日英文化季節イベントの第1弾として位置づけられた。ダービーシャー県やミッドランド地域全体に、続く2つのイベントを PR する点でもよい役割を果たすことができた。

また、レセプションではダービーシャー県に住む日本人と地元住民の個人的なつながりをより強固にすることを目的とする「ダービーシャー日本協会」の設立も発表された。複数の JET 経験者が既に加入しており、JETAA との関係強化にも期待が持たれる。

レセプション参加者からは、素晴らしい時間を過ごすことができたというありがたいフィードバックをいただいた。日英関係が将来のレガシーとなるための足掛かりとして、このレセプションがダービーシャー県とミッドランド地域における日英文化季節の成功を勢いづけることができればと願っている。



木版刷りに見入る参加者

5

日仏交流の懸け橋、JETAA フランス !!

(一財)自治体国際化協会パリ事務所 所長補佐 池田 志穂 (金沢市派遣)

フランス JET 30 周年記念講演会 「わが創作の源：松本零士先生の フランス・日本」開催!!

2018年6月7日、フランスにおけるJETプログラム30周年および日仏友好160年を記念し、JETAAフランス支部は、漫画家の松本零士先生(当時80歳)を招き、パリ日本文化会館で講演会を開催した。

『銀河鉄道999』などで有名な日本を代表するSF漫画家である松本先生は、フランスでも世代を超えて絶大な人気を誇り、フランスの若者がJETを志す契機の一つになるなど、大きな影響力がある。

講演会では、JET経験者であるフロラン・ゴルジュ氏をモデレーターに、フランス軍人の指導を受けた陸軍航空隊の父親の影響、自身の作品がフランス映画『わが青春のマリアンヌ』の影響を受けたことなど、フランスと深く関わる松本先生の創作の源について語っていただいた。また、フランスで視聴率70%を記録したとも言われる『宇宙海賊キャプテンハーロック』のライブ・ペインティングを行い、来場者から熱い視線が注がれた。チケットは予約開始日に満席となり、約300人が来場、講演会終了時には同館の講演会では初めてという満場総立ちで拍手喝采が起きるなど、大変な盛況ぶりであった。

ゴルジュ氏は、2001年から新潟市のCIR(国際交流員)として3年間勤務し、帰国後はゲーム関係の出版社を設立、現在、ゲームの歴史研究者として世界で活躍している。

現在までに300人を超えるフランス人JETは、プロ



モデレーターを務めた元新潟市CIRフロラン・ゴルジュ氏(左)と松本零士先生(右)

グラム終了後、大使館やOECDなどの公的機関で国際交流に従事したり、日系企業へ就職して日仏をつなぐ仕事に携わったり、語学能力を活かして通訳・翻訳者となったりするなど、多方面で活躍している。その多忙な日々の傍ら、JETAAフランス支部として、日本文化を紹介するイベントを毎年企画し、日仏交流の懸け橋として活動している。JETプログラム終了後も、日本への愛着を持ち、日本のサポーターであり続けてくれる彼らの存在は大変貴重である。

JETAA フランス支部会長からの メッセージ

本稿執筆にあたり、JETAAフランス支部会長を務めるオレリー・ノエル氏からメッセージをいただいた。彼女もまた、2010年から茨城県のCIRとして3年間勤務し、現在はフランス国際技術協力庁(EXPERTISE FRANCE)でプロジェクトマネージャーとして活躍している。

「2018年にフランスにおけるJETプログラム30周年を迎え、今後ますます国内外での活動を活性化していきたいと考えている。国内では、引き続き新規JET参加者の出発前および帰国後のサポートをするとともに、2020年に東京、2024年にパリで開催されるオリンピックと関連したイベント等を企画し、活動の充実とメンバー間のネットワークを強化させたい。また、フランス国内でのJETプログラムのさらなる認知度向上のため、より専門的なレベルでのネットワーク構築を図りたい。国外では、フィリピン、インドネシアなどの新しいJETAA支部に、我々の経験やノウハウを共有するとともに、ドイツ、英国、アイルランドなど他のヨーロッパ支部とも連携し、JETAA全体の活動の活性化を図りたい。」

クレアパリ事務所は、今後もJETAAと連携をしながらフランスにおけるJETプログラム、日仏自治体交流の発展を支援していきたい。



JETAAフランス支部会長オレリー・ノエル氏

新規 JET 参加者をサポートする メンターシステム

毎年5月に JET プログラムに合格した応募者は、大使館からのメールを不安な気持ちで待っている。そのメールには日本での配置先に関する情報が含まれており、喜びやほっとした気持ちでそのメールを読む応募者もいれば、配置される都道府県または市町村に関する情報を求めてインターネットを探し回る応募者もいる。しかしながら、日本語の能力が限られている多くの応募者にとって、Google 検索で得られる有益な情報は限られたものである。

そこで、JETAA シンガポール支部では、これらの新規 JET 参加者を、メンターシステムである「先輩-後輩バディシステム」でサポートしている。このシステムは、日本での生活に関する疑問を解消するための信頼できる情報源を提供し、出発前のサポートを行うことを目的としている。来日前に配付される General Information Handbook は JET 参加者にとって有益な情報がたくさんあるが、その情報のほとんどは一般的なものであり、配置される都道府県によって状況が異なる場合がある。ハンドブックの情報を補完するため、新規 JET 参加者が自分の配置先に関する具体的な質問をする機会を提供したいと考えている。また、帰国した JET 経験者にとっても自分の経験や助言を共有すると同時に、日本で過ごした時間を思い出すことにもつながる。

次に、具体的な手順についてご説明したい。年の初め、JETAA シンガポール支部はメンバーに連絡し、バディシステムへの参加意向について確認する。その際、帰国した JET 経験者が日本で住んでいた地域、各イベントへの参加可否、連絡先に関する情報も収集される。新規 JET 参加者の配置に関する情報が大使館から発表されると、その情報を帰国した JET 経験者から収集したデータと照合する。新規 JET 参加者には、同じ都道府県または市町村で働いていて、同じ職種（ALT または CIR）の帰国した JET 経験者がバディとして割り当てられる。2019 年

は帰国した JET 経験者のうち合計 32 人が先輩役を引き受けてくれ、実際には 37 人の新規 JET 参加者のうち 31 人に帰国した JET 経験者が割り当てられた。2019 年 6 月 14 日に最初の顔合わせが行われ、日本の学校でよく行われるゲームでウォーミングアップを行った後、新規 JET 参加者の配置によって小さなグループに分かれて質疑応答セッションを行った。セッション終了後のフィードバックでは、10 人に 9 人が役に立ったと感じたようである。



先輩-後輩の顔合わせでは活発な情報交換が行われた

顔合わせの後は必要に応じ連絡先を交換し、来日前、来日後の情報交換を行っているほか、ALT 同士での情報交換を目的としたワークショップなども行っている。こうした取り組みにより、今後もシンガポールの JET 参加者が日本とシンガポールとのよりよい橋渡しを続けられることを願う。



ALT は授業の仕方をワークショップで学ぶ機会も



新規 JET 参加者の壮行レセプションの様子



来日前の日本語講座の様子

日本の地域の魅力を広めるための 旅行博ボランティア

シンガポールに帰った後、多くの JET 経験者は JET としての冒険の中で訪れた自分の配置先や日本の自治体への愛を広める機会を待っている。その方法の1つが、日本政府観光局 (JNTO) がジャパンパビリオンブースを出展する NATAS トラベルフェアでの自治体 PR である。参加希望者は JETAA シンガポール支部が取りまとめ、クリアシンガポール事務所を経由して JNTO や参加自治体と調整する。

メンバーは自分のお気に入りの場所、地元の名物を来場者に紹介することだけでなく、単にブースで法被を着ることにさえ興奮している。多くの場合、来場者の気ま

まな日本旅行のプランニングに対して自分の経験を伝え、新しい視点を与えることができる。3-4 時間ほとんど休まずに立って来場者の対応をすることも多いが、興味のある場所について話すことに興奮しているため、時間が経つのも忘れてしまうほどである。



旅行博で地域の PR を行う JETAA メンバー

帰国した JET 経験者にとっても、旅行博でのボランティアをすることは日本とのつながりや懐かしい思い出を呼び起こす機会となり、時には日本への「里帰り」をしたくなるという声を耳にする。私たちが「日出ずる国」とのつながりを保つことができるように、このような機会がより増えることを期待している。

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 大沢 美帆 (長野県派遣)

JETAA 大韓民国支部は会員 366 人 (2019 年 7 月時点) で、3 人の役員を中心に、①日韓交流、② JET プログラム参加者への支援、③ JET プログラム広報の 3 つの分野に関わる活動に取り組んでいる。また、韓国の JET プログラム参加者は、国際交流員 (CIR) としての任用がほとんどであるため、多くの方が帰国後も多岐にわたって日本と韓国の交流に携わっている。今回は、JETAA 大韓民国支部の活動を中心に、日本と韓国の懸け橋として、韓国で活躍する JETAA を紹介する。

日韓交流おまつり in Seoul — 将来活躍する若者たちへ —

2005 年、日韓国交正常化 40 周年を機に始まった「日韓交流おまつり」。日韓最大の草の根交流行事とも言われ、2019 年度で 15 回目の開催となったこのイベントでは、両国の文化芸術団体による舞台公演、食文化や伝統衣装の体験ブースをはじめ、企業や自治体も参加し、来場者も含め、日韓の交流を深めている。

JETAA 大韓民国支部も、クレアソウル事務所と共同でブースを出展し、日本に興味・関心を持つ学生やこれから日本での就職を考える若者たちに、JET プログラムの紹介や日本での生活等について、実際に暮らした経験をもとにアドバイスを行うとともに、クイズイベント等により日本の地域の紹介も行っている。



「日韓交流おまつり 2019 in Seoul」@ COEX 展示ホール (ソウル特別市)

日韓交流スピーチ大会 — 日韓の相互理解、友情を育む —

「日韓交流スピーチ大会」は、「日韓交流おまつり」と同じく、日韓国交正常化 40 周年で、両国の交流に関する機運が盛り上がった 2005 年、当時の JETAA 大韓民国支部会長の企画により始まった日韓交流イベントである。JETAA 大韓民国支部、在大韓民国日本国大使館公報文化院、クレアソウル事務所の共催で毎年開催しており、多くの協賛団体の協力のもと、2019 年度で 14 回目を迎えた。

韓国人は日本語、日本人は韓国語で、お互いの国や文化について、自身の経験などを踏まえて、率直に話し、交流することで、相互理解の増進と友情を深めることを目的に開催している本大会。毎年、高校生・大学生を中心に 100 人近くから応募があり、予選審査を通過した約 20 人が本選大会へ出場し、熱いスピーチを披露する。2019 年の第 14 回大会では、小学生から大人まで幅広い年齢、職業の方が、お互いの国で出会った人、感動した経験、興味をもったきっかけ等を手振り、身振りも交えて発表し、会場も発表者の感情に引き込まれるほど、レベルの高い大会となった。



「第 14 回日韓交流スピーチ大会」授賞式

特に、今回は日韓情勢が厳しい状況の中での開催であったが、2018 年よりも多くの応募があった。参加者も来場者も全ての人々が、お互いの国、文化を尊重し合い、大会後の交流会では、切磋琢磨した参加者同士、お

互いの健闘を称え合ったり、それぞれの体験や語学の勉強方法を話し合ったりするなど、とても和やかな雰囲気、日本と韓国の友情を深める良い機会となった。



お互いに健闘を称え合う参加者たち（日韓交流スピーチ大会交流会）

日本と韓国の懸け橋として活躍する JETAA

JETAA 大韓民国支部は、独自のイベントを主催するだけでなく、韓国で開催される日韓交流イベントにも積極的に参加し、盛り上げ役としても活躍している。

SJC（ソウル・ジャパンプラブ）^(注)が主催する「日韓カラオケ大会」では、大会の司会進行を担うなど、大会運営に大きく貢献している。



「日韓カラオケ大会」で司会進行を行う JETAA

さらに、日本の自治体が韓国において、観光インバウンド広報や PR 活動のために、旅行博等のイベントや商談会でブースを出展する際に、日本の地域や自治体を良く知っているという強みを活かして、ブース運営スタッフとして中心的役割を担ったり、各種視察や表敬訪問、企業セールスの際の通訳を行ったりする等、幅広い分野



長野県東筑摩郡村長会の視察時の通訳（農村振興庁国立園芸特作科学院施設園芸研究所）

で、日本の自治体の韓国との交流活動に欠かせない存在として活躍している。

アナザー・スカイ（第2のふるさと）

JETAA は、帰国後も日本に関わる仕事や活動に携わる方が多く、日本への思いや任用元地域を大切にしている。そこで今年から JETAA が、任用元自治体の地域の魅力を、

JETAA 大韓민국 지부

Another Sky—일본·두 번째 고향—
작지만 소중한 한일 교류의 마을, 고토우라
【dotto리현 고토우라정】



「アナザー・スカイ（第2のふるさと）」の紹介

「第2のふるさと」として紹介するコーナーをクリアソウル事務所ホームページに新設し、実体験も踏まえた新たな視点で、韓国における日本の自治体の魅力発信を行っている。

このように、JET プログラム終了後も、日本と韓国との交流に大きく貢献している JETAA。日本の自治体にとっても、クリアにとっても、JETAA は「財産」であり、今後もこのつながりをお互いに大切にするとともに、JETAA のさらなる活躍に期待し、応援していきたい。

(注) 日系企業や日系機関をはじめ、仕事・結婚・留学などを理由にソウルに住む日本人を中心とした会員で構成される。日本人学校の運営や、韓国で生活する人同士の情報交換や親睦の機会の提供、ボランティア活動、日韓両国の親善活動などが主な活動内容。

オセアニアの JETAA

JET プログラムが始まった 1987 年から 2019 年に至るまで、オーストラリアからは約 4,600 人、ニュージーランドからは約 3,300 人が、同プログラムに参加してきた。人口当たりの累計 JET プログラム参加者数は、前者は世界第 4 位、後者は世界第 1 位であり（クレアシドニー事務所調べ）、また、両国は同プログラム開始当初の 4 つの招致国を構成する 2 つの国であり、両国とも JET プログラムの発展に大きく貢献してきた。本稿では、JETAA 各支部のメンバーが、オーストラリアおよびニュージーランドと日本との懸け橋として活躍している姿を紹介する。

JETAA キャンベラ支部

JETAA キャンベラ支部は、オーストラリア首都特別地域（ACT）にあるオーストラリアの首都キャンベラに本拠を置いている。キャンベラは奈良市の姉妹都市であり、両市は 26 年にわたり交流を続けている。キャンベラ・ナラ・ピースパークでは、両市の姉妹都市友好関係を祝い、毎年 10 月頃にキャンベラ・ナラ・キャンドルフェスティバルが開催され、約 1 万人が来場し、にぎわいを見せている。同支部はこの日本祭りに毎年ブース出展し、浴衣を着用するなどして餃子等を販売し、その収益の一部を、後述する Tohoku Youth Program の実施のために寄付している。残念ながら、2019 年は強風により同フェスティバルの開催が中止となってしまったが、



Tohoku Youth Program Trivia Night の様子

同支部は 2020 年も同フェスティバルに参加し、当地の方々に日本に親しみを持ってもらうための取り組みを続ける予定である。

キャンベラでは、2012 年から豪日協会 ACT により、Tohoku Youth Program が実施されている。同プログラムは、東日本大震災で親を亡くした生徒をキャンベラに招待し、約 2 週間、オーストラリアでの生活を体験してもらうものである。JETAA キャンベラ支部もこのプログラムに参画し、Tohoku Youth Program Trivia Night というチャリティークイズ大会を実施し、その収益をこの事業の実施のために寄付している。2019 年は、JNTO（日本政府観光局）シドニー事務所からも景品の提供を受けるなどして、現地の日系機関との協力関係を強化しながら、Tohoku Youth Program を後押ししている。

JETAA キャンベラ支部は、キャンベラジャパンプラブや豪日協会 ACT と協力して、東日本大震災追悼慰霊の集いを実施している。2019 年 3 月の集いでは、JETAA キャンベラ支部会長が、自身が JET 参加者として日本滞在中に東日本大震災で被災した体験に触れつつ、同震災で亡くなった宮城県と岩手県で勤務していた JET 参加者



東日本大震災の被災体験を語る JETAA キャンベラ支部会長

を追悼するスピーチを行った。

このように、キャンベラでは、日豪間でつらい経験も共有し、心に寄り添う交流が続けられている。

JETAA クイーンズランド支部

オーストラリアのクイーンズランド州の州都ブリスベンに本拠を置く JETAA クイーンズランド支部は、毎年3月頃にクイーンズランド大学で在学学生向けに開催されているキャリアフェアにブース出展している。同支部は2019年3月20日にも同フェアにブース出展し、クリアシドニー事務所職員と協働して、学生に JET プログラムを紹介するとともに、卒業後のキャリアの選択肢として同プログラムへの参加を呼び掛けた。学生の中には、日本で働くことに関心があり、すでに同プログラムへの参加を検討している者もあり、同支部メンバーに具体的な質問をする姿も多く見られた。JET 経験者の実体験に基づく回答やアドバイスには説得力があり、学生の不安を解消し、同プログラムへの参加意欲をさらに高める効果があり、非常に有意義な PR の機会となっている。

2019年、クイーンズランド大学のほか、グリフィス大学サウスバンクキャンパスで豪日協会クイーンズランドが8月7日に実施したキャリアイブニングおよび同大学ゴールドコーストキャンパスで10月3日に開催したキャリアフェアでも、同プログラムの PR を実施した。

日本に高い関心を持つ優秀な学生が同プログラムに参加して日本の地域社会の国際化に貢献し、さらに、同プログラム終了後は日本とオーストラ



JET プログラムの PR をする JETAA クイーンズランド支部メンバーとクリアシドニー事務所職員

リアの交流の担い手として活躍してもらえよう、同支部は工夫を凝らしながら活動を続けている。

オセアニア会議

オセアニア会議は、オーストラリアとニュージーランドの JETAA 各支部が、活動状況報告や直近の課題等に

関する意見交換等を行う場として、年に1度、開催している地域会議である。2019年は、両国の JETAA 支部に加え、シンガポールの JETAA 支部からも代表者が参加し、さらに、クリア役員も参加し、これまでも増して、国際色豊かな会議となった。2019年は JETAA 設立30周年の節目の年にあたり‘2020 Vision - Looking Clearly to the Future’ というテーマを掲げ、各支部代表者は、各支部のこれまでの歴史を振り返りつつ、現在の活動状況や今後の活動展望、各地域の日系機関との協働などを内容とするプレゼンテーションを行った。

各支部代表者が真剣に議論する姿から、彼らがいかに日本とのつながりを大切にしているか、うかがうことができた。



JETAA オセアニア会議参加者集合写真

ニュージーランドサミット

ニュージーランドの全3支部が、ニュージーランドの JETAA 特有の事項などについて議論するニュージーランドサミットが、今年1月に初めて開催された。

ワークショップでは、JETAA の活動戦略やイベントの企画運営、さらには、どのようにメンバーをまとめて活動していくかなどの点について活発な意見交換がなされた。

将来に向けての期待

JETAA メンバーらは、JET プログラム終了後も、日本への愛着をモチベーションに、多忙な日々の合間を縫い、日本との懸け橋として活躍している。日本の小学校における英語の教科化などにより、JET プログラム参加者への期待がさらに高まることが予想されるなか、今後も優秀な JET プログラム参加者を確保しつつ、JET 経験者がオーストラリアおよびニュージーランドと日本との関係の拡大・深化に貢献できるよう、JETAA 各支部の活動のさらなる充実が期待される。